

外国語科目（日本語）

受験番号
ME

以下の全ての問題に答えなさい。

問題一（ ）に入るもっとも適切な語句を選び、番号をカッコ内に記入しなさい。

(一) バイトも忙しいし、発表の準備も重なって、一昨日から（ ）寝ていなさ。

- 1 まれに
- 2 めったに
- 3 ちじむしく
- 4 ろくに

(二) 父は被災後も私が学業を続けられるようにと、（ ）を尽くしてくれた。

- 1 目
- 2 手
- 3 足
- 4 頭

(三) 新郎新婦両家の顔合わせパーティーは終始（ ）雰囲気で、とても楽しかった。

- 1 なごやかな
- 2 なまめかしい
- 3 なららかな
- 4 なめらかな

(四) 「男が突然、私のハンドバッグを奪って逃げた」の「奪って」は「（ ）（ ）って」と読む。

- 1 と
- 2 つかま
- 3 うば
- 4 だつ

(五) 近頃のソフトウェアは無料で最新の仕様に（ ）できるものが多い。

- 1 アップロード
- 2 アップトゥーデート
- 3 アップデート
- 4 アプリケーション

問題二（ ）に入るもっとも適切な語句を選び、番号をカッコ内に記入しなさい。

(一) お医者さんに言われた通りに薬を飲まないと、病気が早く治（ ）（ ）ませんよ。

- 1 れ
- 2 ら
- 3 し
- 4 り

(二) この試験への資料の持ち込みは可とする。（ ）（ ）、電子機器の持ち込みは不可とする。

- 1 さらに
- 2 ただし
- 3 もしくは
- 4 かといって

(三) 彼は酒を飲み始めたが最後、（ ）（ ）。

- 1 それから一度も飲んでいない
- 2 泥酔するまで飲んでしまう
- 3 同時に食事はしない

(四) （ ）（ ）べく、毎日アルバイトに励んでいる。

- 1 故郷の両親が喜ぶ
- 2 遊ぶ時間も削る
- 3 学費を自分で払う

(五) （ ）（ ）と思いきや、<sup>たたみ</sup>畳に<sup>ふとん</sup>布団の生活にもすぐに慣れた。

- 1 日本文化について特に興味を持っていなかった
- 2 新しい生活環境に戸惑う
- 3 部屋に入るときに靴を脱ぐとは知らなかった

【次のページに続く】

問題三 ( ) に入るもっとも適切なひらがなをカッコ内に記入しなさい。それぞれの字数は2字  
までである。

(一) 来年度の委員長は菅野さん ( ) ほぼ決まりですね。

(二) この村 ( ) 視察 ( ) 訪れた佐藤さん ( ) 見たのは農作業を手伝う小  
な子どもたちの姿だった。

(三) 子どもを起 ( ) て、お弁当を作ったと、朝はとてもあわただしい。

問題四 次の各文を【論文・レポートに適した書き言葉表現】に変換・修正しなさい。解答は枠内に全文を書き  
なさい。

(一) 新しいことを始めなきゃいけないってゆうことばかり考えてると、逆に大事なことを見失っちゃう。

--

(二) A説とB説のどっちが有効か、データをもとに検討してみましようよ。

--

(三) 冬季の通学における問題点は、電車がよく遅れる。

--

【次のページに続く】

問題五 問題文は、『桜がなくなる日―生物の絶滅と多様性を考える』（岩槻邦男・平凡社・二〇一三年）の一部です。この問題文をよく読んでから、問一と問二に答えなさい。

日本のサクラの自生種には、レッドブックにあげられている種はない。また、どのサクラの野生種を取り上げても、これだけ甚だしい人為の影響があるというのに、絶滅の危機に追いやられている種はないのである。

それどころか、人為によって栽植されているサクラの個体数は膨大な数に上っている。日本列島、春のひとときはサクラで埋め尽くされるといいくらいである。

しかし、それならサクラがなくなる日のことなど、誰も考えなくていいのか。安全だ、安全だといわれていた構造が、想定外の災害が襲来すると脆くも崩れてしまうことだって現実である。目下優勢だからといって、サクラの未来をサクラの現状だけから想定するのは危険である。

絶滅危惧種の調査研究をする目的は、生物多様性の現状を指標するモデルの描出であると述べた。個々の生物種の動態から、特定の種に絶滅の危機が及んでいることを知るのにはきわめて残念で深刻な問題であることはいうまでもない。

しかし、絶滅危惧種が生じるといふ事実は、絶滅に瀕する特定の種が惜しいという話にとどまるのではない。一種でも危険な種があるということは、それだけ生物圏全体に危機が及んでいる現実を指標する。生き物は一種一種が勝手に生きているのではなく、長い進化の歴史を背負って、すべての生き物が相互に直接的間接的な関係性を分かち合っている。そのうちのある一種の絶滅は、生き物全体の生に変化が生じているきびしい現実を指標している。

レッドリストを編むことは生物多様性の現実を明示することであり、すべての人々がその現実を理解し、危険が迫っている場合にはそれに対応する確実な行動を起こすことができるのなら問題はない。しかし、現実には、残念ながら、甚だしい危機が仄見えているというのに、大多数の現代人はその現実にはなほだ無関心である。ということは、考えたくないことだが、この地球の生物多様性に及ぶ危機はますます拡大することを意味している。生物多様性に及ぶ人為の危機が、生物多様性の維持を不能にするだけの閾値を超えるなら、考えるだけでもおぞましい話ではあるが、その場合には地球上の生物多様性は崩壊の危機に追いやられる。リストに載せられている特定の種だけが絶滅に追いやられるのではなく、生物多様性そのものが崩壊するように、大多数の種に生存の危機が訪れる。

その時、サクラだけが生き残ることのできるわずかな種のうちに含まれると予測する根拠は何もない。生物多様性の崩壊する日、それはサクラにとっても地球上に存在を許されなくなる時である。サクラのなくなる日が来ない、と断言できる人は誰もいないのである。

(中略)

【次のページに続く】

【前のページの続き】

ここでは、もっと生物学の常識に戻って整理してみよう。

現在の生物学の常識に従うと、生き物は三十数億年前に単一のかたちで地球上にすがたを現し、三十数億年の進化の歴史を経て、億を超えるときさえ推定されることがあるほど多くの種に分化するなど、多様なすがたを示すようになった。そして、その多様な生き物のすべてが、相互に直接的、間接的な関係性をもち合って、全体としてひとつの生命を生きている(岩槻、一九九九)。

生物学が確認するようになったこのような事実にもとづいて考えると、ヒトもまた三十数億年前に地球上にすがたを現した生命体の長い進化の結果として、現在、生きている生き物の一種であり、その意味では、ニホンザルやヤマザクラや大腸菌と並列されるべき生き物の一型である。確かに、近々一万年ほどの間にヒトが展開した知的な発展の大きさは巨大であり、知的な種としてのヒトは今や地球を制覇する力をもつようになったときえ自認する。

しかし、たとえ知的能力を駆使する唯一の種であるとはいえ、ヒトが億を超える生物種のうちのひとつである事実を覆うことはできないし、ヒトだけがこの地球上で単独に生きることができず、ヒトもまた他の多様な種と助け合いながら自分の生を維持していく必要がある存在であるという事実から目を背けることはできない。

三十数億年の地球上の生き物の進化の歴史を通じて、地球上に生きるすべての生き物は、直接的、間接的に相互に影響を及ぼし合って生きてきた。地球の反対側に生きている名も

【次のページに続く】

【前のページの続き】

知らぬ生き物でさえ、関係性を追っていけば自分の生になにかのつながりをもっている。その意味で、生き物はすべてが相互に影響し合い、全体でひとつの生命を生きている。最近、人と人の間の絆の大切さが訴えられることが多いが、生命の絆は、地球上に生きるすべての生き物が共有しているものでもあることに、もっと強い関心をもちたいものである。生き物の間の絆は最近になって発生したものではなくて、三十数億年に及ぶ長い進化の歴史を通じて、一瞬の休みもなく、すべての生き物がその絆を大切にして生きてきたのである（岩槻、二〇一三）。

ごく最近になって、人が、知的な思考をするようになってから、好きな生き物は大切にすることが嫌いな生き物は平気で駆逐するような残忍な行動をするようになった。それがいかに残忍な行為であるかはほとんど意識さえしないままに、である。そして、その結果、地球上から放逐される絶滅種が後を絶たぬことになり、その状況をもたらした人の存在にさえ危機が迫ろうとしているのである。

万物の霊長と自認する人の多くが、その現実には気付かないままに。

※ 仄見える く かすかに見える、わずかに見える。

※ 閾値しきいち く ある反応を起こすために必要な刺激の最小値。いきち。

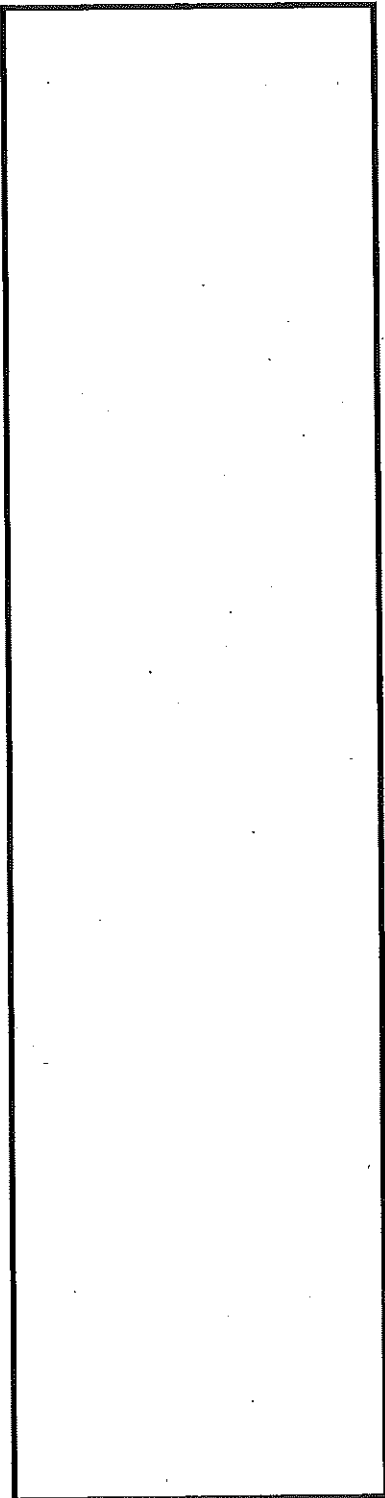
※ なにかしかの く なにかの、なんらかの、なにかしらの。

※ 駆逐・放逐 く 追い払うこと。追放。

（岩槻邦男『桜がなくなる日―生物の絶滅と多様性を考える』（平凡社・二〇一三年）より一部抜粋）

問一 A～Dの文は、それぞれ問題文の趣旨とは違う点があります。どのような点が、どのように違っているのか、説明しなさい。

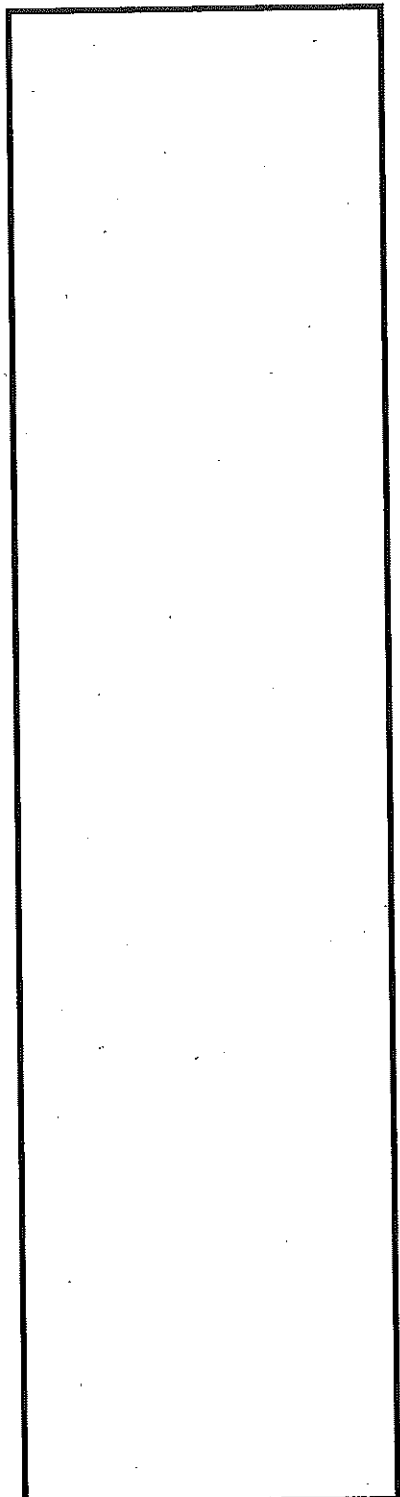
A ある特定の種の絶滅は、その他の生物種には何の影響も与えない。



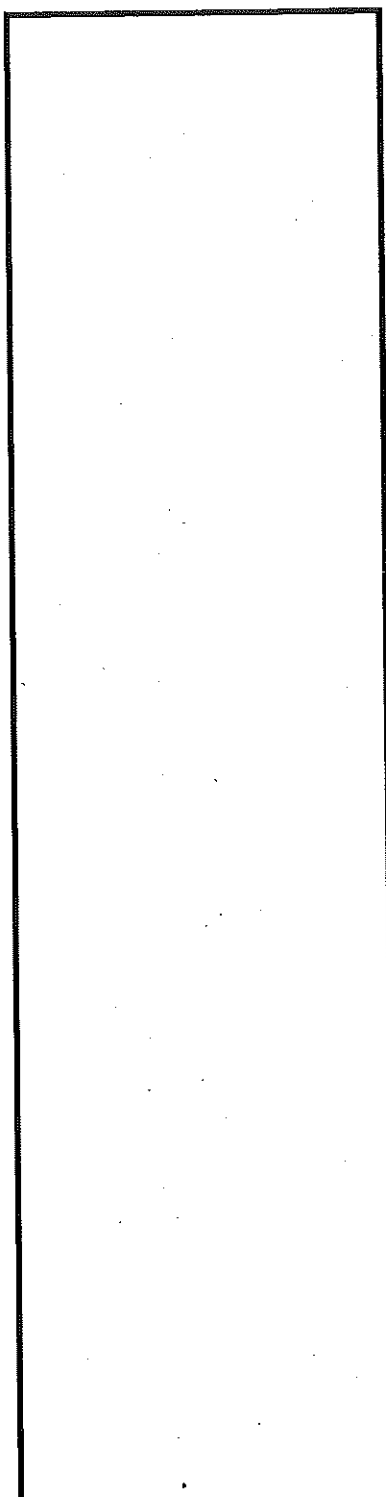
【次のページに続く】

【前のページの続き】

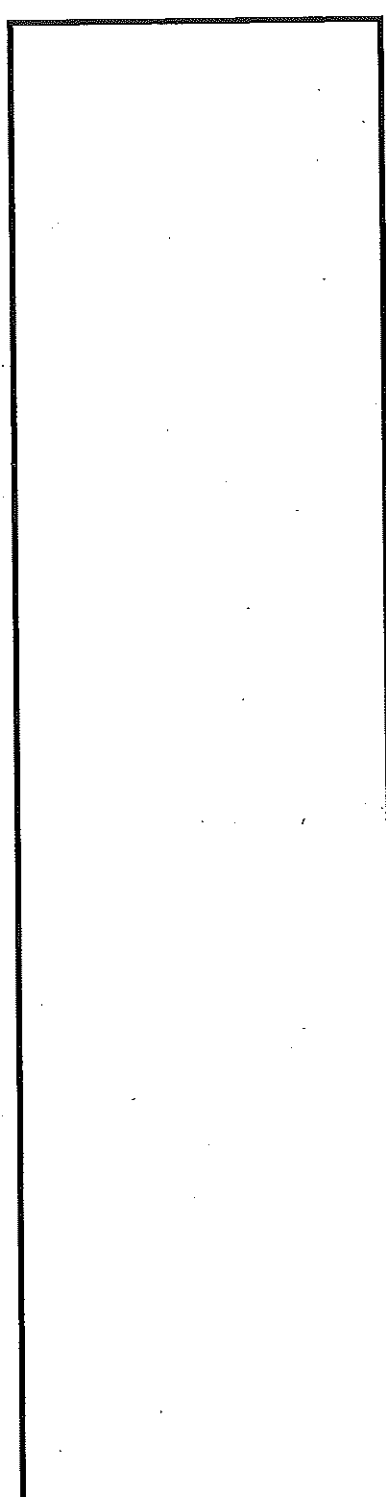
B 地球上で知的能力を駆使する唯一の種であるヒトは、生物学的にみて、他の生物と並列した種として捉えるべきではない。



C 最近になって、生き物と生き物の間における生命の絆の重要性に強い関心が集まっている。



D 人が知的な思考をするようになったおかげで、特定の種に絶滅の危機が及ぶ事例が減少している。



問二 問題文の要旨を、別紙原稿用紙に、三〇〇～四〇〇字でまとめなさい。

【以上】

